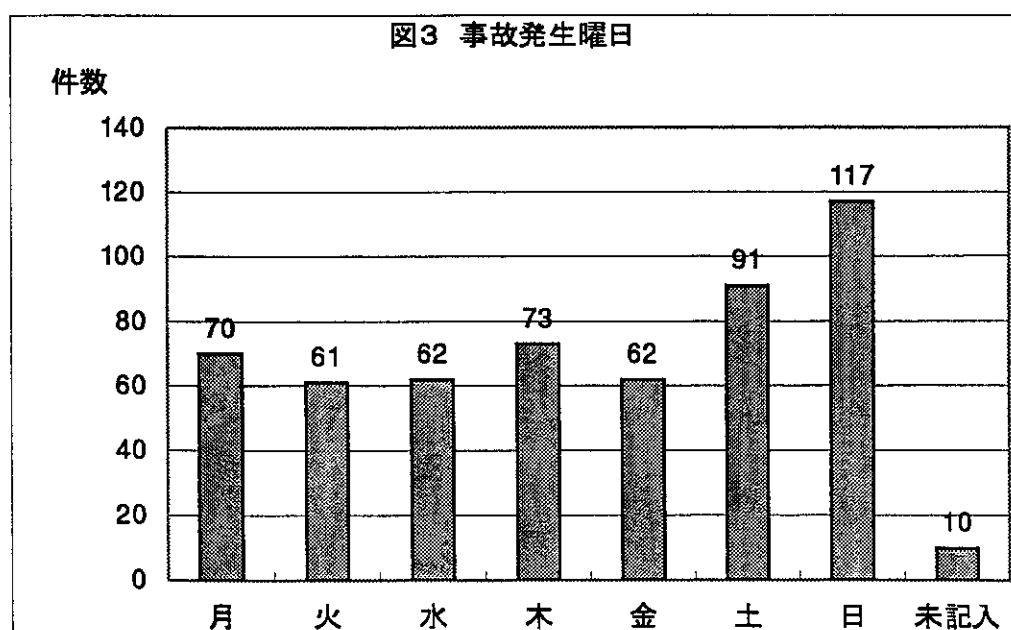
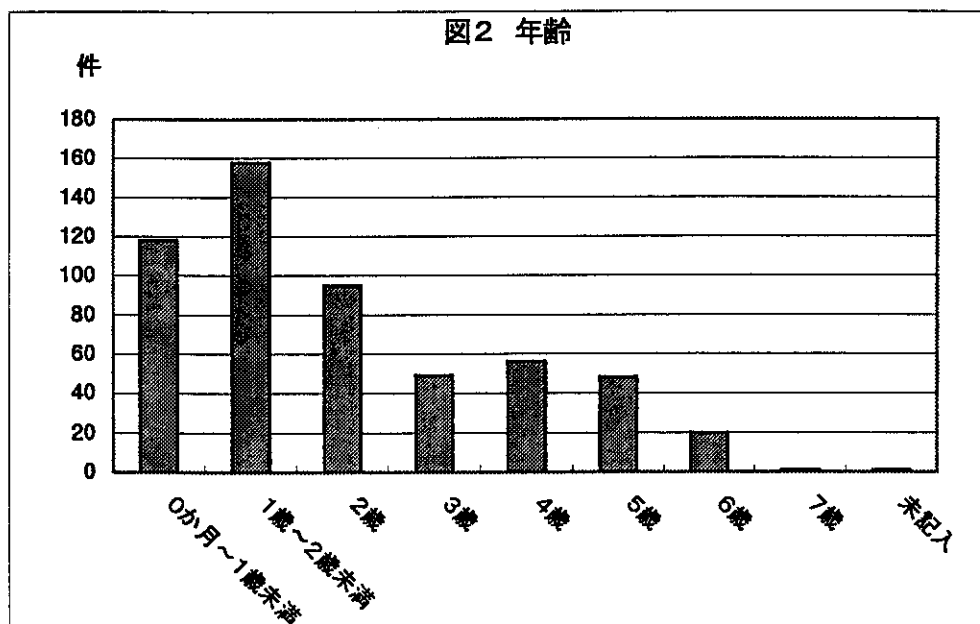


表1 定点（医療機関）からの報告数

月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
報告 件数	23	45	27	33	28	34	37	34	82	105	98	546
定 点	1か所（石川県立中央病院）							5か所（小松市民 病院、公立松任中央 病院、公立能登総合 病院、珠洲市総合病 院、石川県立中央病 院）				
発 信		○ Vol11					○ Vol12			○ Vol13		

表2 性別

	男	女	計
件数	332	214	546
割合%	60.8%	39.2%	100.0



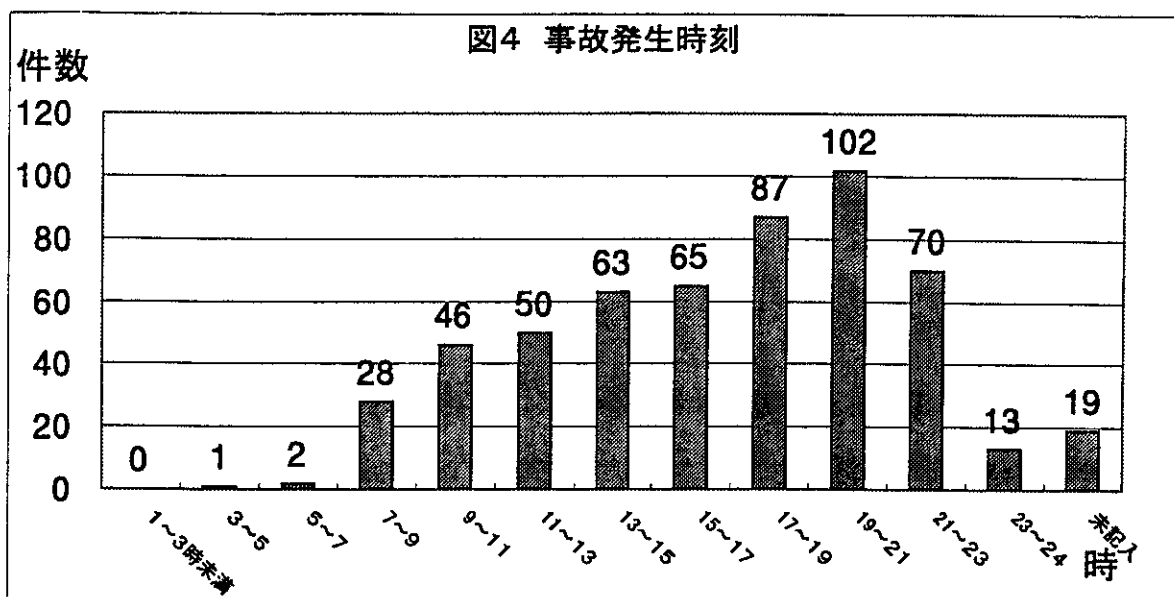


表3 事故発生場所

	家庭	道路	保育所	店舗	公園	公共施設	川	その他	未記入	計
件数	383	37	34	23	20	16	3	19	11	546
割合	70.1%	6.8%	6.2%	4.2%	3.7%	2.9%	0.5%	3.5%	2.0%	100.0%

表4 屋内での事故発生場所

屋内事故	居間	階段	台所	寝室	玄関	風呂場	庭	その他	計
件数	210	55	43	28	18	12	12	67	445
割合	47.2%	12.4%	9.7%	6.3%	4.0%	2.7%	2.7%	15.1%	100.0%

表5 事故原因

事故原因	転落	転ぶ	誤飲	ぶつかる	火傷	切る刺す	挟む	その他	未記入	計
件数	155	97	90	59	44	33	27	35	6	546
割合	28.4%	17.8%	16.5%	10.8%	8.1%	6.0%	4.9%	6.4%	1.1%	100.0%

表6 年齢別事故経験

事故原因	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	未記入	計
転落	33	49	31	14	17	7	4			155
転ぶ	9	20	19	16	11	16	6			97
誤飲	50	26	8	3	2	1				90
ぶつかる	6	15	10	4	10	11	3	0		59
火傷	8	17	10	1	4	2	1	0	1	44
切る刺す	2	11	5	4	3	5	2	1		33
挟む	2	11	4	3	3	2	2	0		27
その他	5	7	8	4	5	4	2			35
未記入	3	2			1					6
計	118	158	95	49	56	48	20	1	1	546

表7 傷病部位 (複数回答)

	頭部	四肢	体幹	その他	未記入	計
件数	339	130	84	16	4	573
割合	59.2%	22.7%	14.7%	2.8%	0.6%	100.0%

表8 診断名 (複数回答)

診断名	打撲	切傷刺傷	中毒	熱傷	異物	骨折	捻挫脱臼	その他	未記入	計
件数	226	111	70	45	24	16	16	36	6	550
割合	41.1%	20.2%	12.7%	8.2%	4.4%	2.9%	2.9%	6.5%	1.1%	100.0%

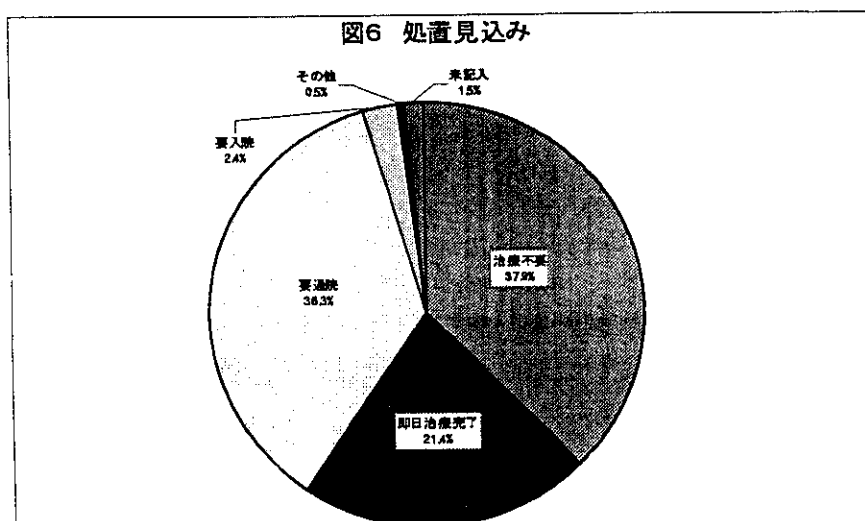
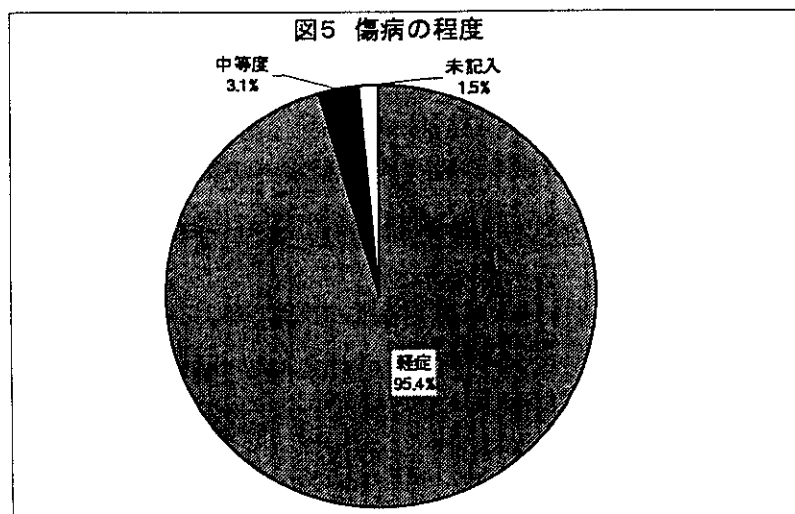


表9 事故原因別処置見込み

	治療不要	即日治療完了	要通院	要入院	その他	未記入	計
転落	88	17	43	3	1	3	155
転ぶ	33	18	42	4			97
飲む	34	45	5	4		2	90
ぶつかる	22	9	26			2	59
火傷	2	7	34		1		44
切る刺す	8	2	23				33
挟む	6	6	15				27
その他	12	12	9		1	1	35
未記入	2	1	1	2			6
計	207	117	198	13	3	8	546

**様式1の1**

**保護者のみなさまへ**

お子さまの思いがけない事故に驚きや不安を抱かれていることと思います。

最近の研究では子どもの行動の発達過程を十分に理解し、対応をすることにより、大部分の事故は防止可能であることが明らかになってきました。

そこで石川県では、子どもの思いがけない事故を減らすため、平成9年度から「子どもセーフティセンター」を能登中部保健所内に設置し、事故予防対策を推進しています。

今回お子さまが事故に遭遇した時の状況を、別紙の調査表で回答いただくことにより的確な治療と今後類似した事故が起きないための予防対策を検討し、事故予防情報を保護者の方々に提供していくこととしております。

お子さまの事故で気が動転されていることと存じますが、調査にご協力いただきますようお願いいたします。

なお、個人の名前など個人が特定できる情報については、プライバシーを保護し、当目的以外に使用しませんので念のため申し添えます。

小松市民病院長  
公立松任中央病院長  
石川県立中央病院長  
公立能登総合病院長  
珠洲市総合病院長  
石川県厚生部長

**当事業の問い合わせ先**

石川県厚生部健康推進課母子保健係

TEL (076)223-9150

子どもセーフティセンター

(能登中部保健所内)

TEL (0767)53-2482(代)

様式1の2

事故受診者の情報（1）家族等の記入 3枚複写 病院控（カルテ用）

事故時の様子について記入ください

記入者（本人との続柄）

お子さまの 氏名	性別	男・女	生年月日	平成	年	月	日	
住所		市	町	番地	電話番号	( )		
受診日	年	月	日( )	事故にあった日	事故日	年	月	日( )
受診時間	午前・午後	( 時 分頃)		曜日、時間	時間	午前・午後	( 時 分頃)	
<p>1) 事故が起きた場所（屋内・外の区別）</p> <p>1. 家庭    2. 店舗    3. 保育所（幼稚園）    4. 公園    5. 道路    6. 公共施設  7. 海・山・川などの自然環境    8. その他( )</p> <p>2) 事故が起きた場所（屋内の場合）</p> <p>1. 階段    2. 浴槽・風呂場    3. 台所    4. 玄関    5. 居間    6. 洗面所  7. 寝室    8. 庭    9. その他( )</p> <p>3) 事故の内容</p> <p>1. 誤って飲み込む（食べる）    2. 転ぶ    3. 落ちる    4. 切る    5. 刺す  6. はさむ    7. ぶつかる    8. 有毒ガスの吸飲  9. 咬まれる    10. やけど    11. その他( )</p> <p style="text-align: center;">( )</p> <p>4) 事故が起きたとき、あなたはどのようにしていましたか。事故の状況や経緯についてできるだけ詳しく記入ください。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>								
この事故について後日詳しく聞きたい時、連絡してもよろしいですか。 ( はい・いいえ )								

様式2 事故受診者の情報(2) 医療機関が記入

医療機関名

記入者

氏名	性別	男・女	生年月日	平成	年	月	日
主たる診療科	1. 救急診療      2. 小児科      3. 外科      4. 整形外科 5. 形成外科      6. 脳神経外科      7. 麻酔科      8. 小児外科 9. 皮膚科      10. 泌尿器科      11. 眼科      12. 耳鼻咽喉科 13. 内科      14. 産婦人科      15. 歯科・口腔外科 16. その他( )						
傷病名	1. 骨折      2. 脱臼・捻挫      3. 切断      4. 擦過傷・捻挫・打撲傷 5. 刺傷・切傷      6. 頭蓋内損傷      7. 内臓損傷      8. 神経・脊髄の損傷 9. 筋・腱・血管の損傷      10. 窒息      11. 異物の侵入 12. 溺水      13. 凍傷      14. 熱傷の場合記入 ----- 15. 皮膚障害      程度) 1. 1度    2. 2度    3. 3度 16. 感電障害      範囲) 全身の <input type="text"/> % 17. 中毒・誤飲(何か )      原因) 1. 火災爆発による 18. 呼吸器障害      2. 熱いものに触れる 19. 消化器障害      3. 湯や蒸気に触れる 20. その他の損傷      4. 化学物質による						
傷病部位	<頭部>		<体幹>		<四肢>		
	1. 頭部		8. 食道・胃		14. 上腕(肩)・前腕		
	2. 顔面		9. 気道		15. 手掌・手背(手首)		
	3. 眼		10. 胸部		16. 手指		
	4. 耳・平衡器		11. 腹部		17. 大腿・膝・下腿		
	5. 口・口腔・歯		12. 腰部・臀部		18. 足部(足関節)		
	6. 鼻・咽喉		13. 会陰部		19. 全身		
	7. 頸部				20. その他( )		
処置見込み (○印 一つ)	1. 治療不要      2. 即日治療完了      3. 要通院 4. 要入院      5. 他院へ入院						
傷病の程度	1. 軽症(入院を要さない傷害) 2. 中等度(生命に危険はないが入院を要する状態) 3. 重症(生命に危険が及ぶ可能性が強い状態) 4. 重篤症(生命の危機がせまっている状態) 5. 死亡			事故発生と関連のある既往歴の有無  有( )  無			



# パパ・ママ、お子さんの事故に気をつけてね！

～ 石川県子ども事故予防通信(平成11年10～12月分)～

子どもセーフティセンター



## 乗り物での事故

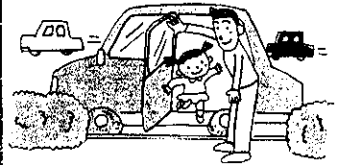
実際にあった事故の内容を紹介します。

### 1. 自動車

- ・自分でパワーウィンドを動かし、指を挟んだ。(2才)
- ・車のドアに指を挟んだ(1才、5才)
- ・車のスライドドアが開いたままで転落(2才)
- ・クーハンに子どもを乗せて、車に乗せようとして転落。(3か月)
- ・前の車が急ブレーキをかけたので、あわててブレーキをかけたら座席から転び落ちた。(1才)
- ・交差点で信号が変わり、前の車にぶつかり、子どもがダッシュボードの所に頭をぶつめた。(1才)
- ・横断歩道を渡るうとして、右折してきた車に接触した。(3才)

#### 安全へのアドバイス

- ① チャイルドシートを使用し、シートベルトをしっかり締める。
- ② 窓やドアを閉めるときは、顔や手をはさまないように注意する。
- ③ 常にドアをロックしておきましょう。さらにチャイルドロックをしておけば安全です。
- ④ 窓から、手や顔を出さないようにする。
- ⑤ 子どもに、ハンドルやギアにはさわらせないようにする。
- ⑥ 車の中に子どもを放置しない。
- ⑦ 車の乗り降りの際にはまわりの状況に気をつけ、歩道側で乗り降りさせる。

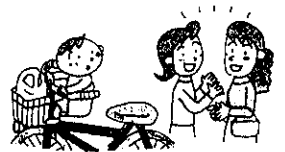


### 2. 自転車・三輪車

- ・自転車の補助椅子に一人で座らせていて、目を離したすきに自転車が倒れて頭をぶつける。(2才)
- ・自転車で走っていて、スピードを出しすぎて自転車ごと倒れた。(1才)
- ・自転車の荷台に乗せていて、左足をスポークに挟んだ。(4才)

#### 安全へのアドバイス

- ① 子どもとの二人乗りは、できるだけ避ける(5歳以下の子ども一人だけが認められている)。
- ② 子どもを自転車の上にのせたままそばを離れない。
- ③ スピードを出しすぎない。
- ④ 足の巻き込み防止のついた補助椅子に乗せ、シートベルトをきちんと付ける。
- ⑤ 体に合ったサイズでSGマークつきの自転車・三輪車に乗せる。
- ⑥ 交通量の多いところでは、子ども一人では自転車に乗せない。
- ⑦ 小さいときから、交通ルールを教える。

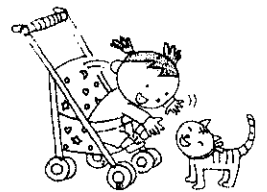


### 3. ベビーカー

- ・ベビーカーに乗せていたが、シートベルトをしておらず転落。(11か月、1才)
- ・子どもをベビーカーに乗せてその場を離れたスきに転落。(2才)
- ・ベビーカーに子どもを乗せたまま持ち上げて階段を上っていたら転落した。(4か月)

#### 安全へのアドバイス

- ① 子どもを乗せたら、シートベルトを締める。
- ② 子どもが、立ち上がらないように注意する。
- ③ バギータイプのハンドルに、買い物の荷物をぶら下げないようにする。  
軽いので、ひっくり返ることがあります。
- ④ 折りたたみ式の場合は、止め金具がしっかりかかっているか、チェックする。
- ⑤ 安全ベルトとブレーキのついたものを使う。
- ⑥ とがった部分や、フレームに鋭いふちのあるものは避ける。



## チャイルドシートの上手な利用法

平成12年4月より、6歳未満の幼児にチャイルドシート着用が法律で義務づけられます。

- ① チャイルドシートは、後部座席に取り付ける。
- ② エアバックのついた助手席には、取り付けない。
- ③ 子どもの体格(体重)に合ったものを使用する。
- ④ ベルトの取り付け位置を子どもの体格に合わせる。  
シートベルトを正しく着用する。
- ⑤ 保護者の同乗のもとで使用する。(ベルトによる窒息防止)



### <お問い合わせ先>

子どもセーフティセンター(石川県能登中部保健所内)

TEL (0767) 53-2482

E-mail:nanaohc@pref.isikawa.jp

# 石川県子ども事故予防通信(平成11年10~12月分) Vol.4

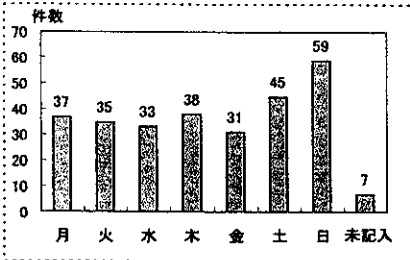
子どもセーフティセンター

県内の定点医療機関から提供された就学前の子どもの事故情報について、報告いたします。  
事故情報を参考にして予防に努めましょう。

対象: 事故により医療機関を受診した乳幼児  
報告数: 10~12月分 285人(男182人、女103人) 定点医療機関: 県内5か所

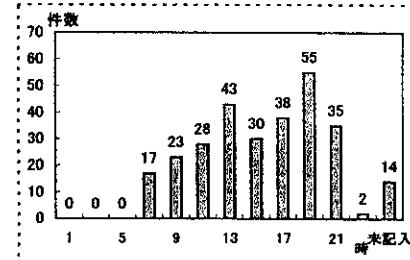
## 1 事故発生曜日

☆日曜日にやや多い。



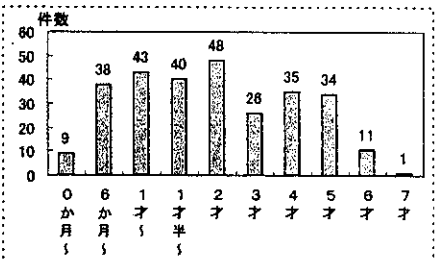
## 2 事故発生時刻

☆夕方・夜に多い。



## 3 事故にあった年齢

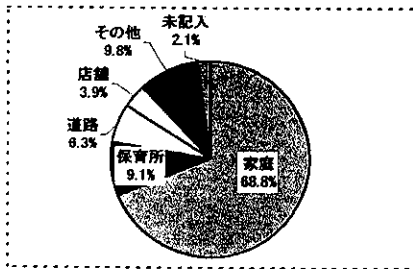
☆生後6か月~3才未満に多い。



## 4 事故がおきた場所

☆家庭内が一番多い。

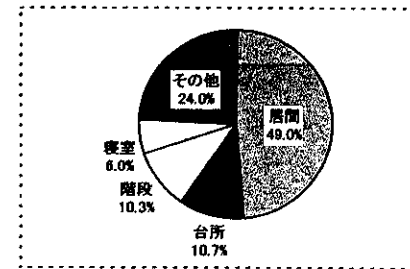
場所	家庭	保育所	店舗	道路	その他	未記入	総計
件数	196	26	18	11	28	6	285



## 5 屋内での事故がおきた場所

☆居間が多い。

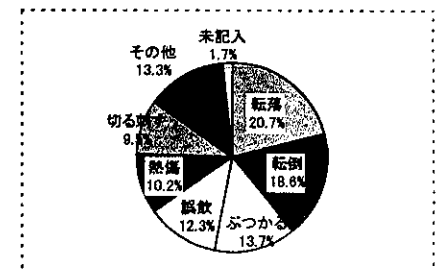
場所	居間	台所	寝室	階段	その他	総計
件数	114	25	24	14	56	233



## 6 事故原因

☆転落、転倒によるものが多い。

原因	転落	転倒	ぶつかる	熱傷	誤飲	溺れ	切創	その他	未記入	総計
件数	59	53	39	35	29	27	38	5	285	

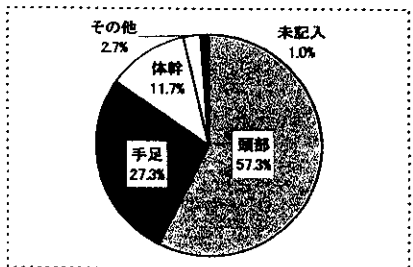


## 7 傷病部位

☆頭部が多い。

部位	手足	体幹	その他	未記入	総計
件数	172	82	35	8	300

(重複回答あり)

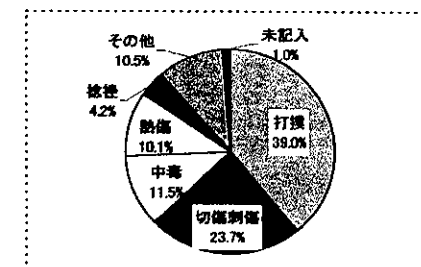


## 8 医師による診断名

☆打撲、切傷・刺傷が多い。

診断名	打撲	切傷刺傷	中毒	熱傷	溺れ	その他	未記入	総計
件数	112	68	33	29	12	30	3	287

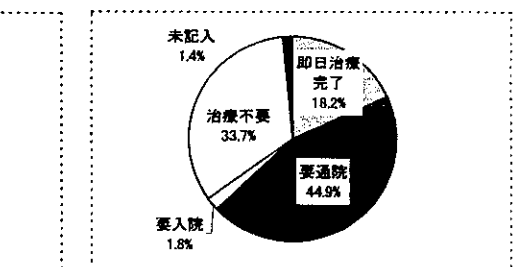
(重複回答あり)



## 9 処置見込み

☆要治療者は、約6割。

処置	即日治療完了	要通院	要入院	治療不要	未記入	総計
件数	52	128	5	98	4	285



ちょっとした油断が事故のもと 家族団らん時の事故が多い。

＜お問い合わせ先＞ 子どもセーフティセンター(石川県能登中部保健所内)

〒926-0021 七尾市本府中町ソ27の9

TEL(0767)53-2482  
E-mail:nanaohc@pref.isikawa.jp

# 小児の事故とその防止に関する研究

主任研究者：田中哲郎

研究協力者：和歌山県福祉保健部健康対策課 染谷 意

森本美紀子

和歌山県御坊保健所 野尻 孝子

松下津也子

東 登紀子

## 研究要旨

和歌山県御坊保健所では、市町村と協力して乳幼児集団健診の場を利用して、小児の事故防止の保健指導を安全チェックリストを用いて実施している。安全チェックリストは保護者への指導材料となるとともに、保護者の事故予防意識や対策の現状、さらには、保健指導効果判定が可能であると考えられる。

今回、安全チェックリストから事故発生の状況と保護者の事故予防の現状を把握したので報告する。

### A. 研究目的

小児の事故防止は小児保健対策上重要である。乳幼児集団健診の場を利用して、安全チェックリストを用いて事故予防の保健指導を行うとともに、事故発生の状況と保護者の事故予防対策の現状を把握し、今後の保健活動に活用することを目的とする。

### B. 研究方法

(1) 平成10年度の4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診実施前に市町村が保護者に対し、安全チェックリストを郵送または配布し、保護者が家庭で記入する。

(2) 各々の集団健診当日に、保健婦が安全チェックリストを回収し、それを基にパンフレットや予防グッズを用いて個別に事故に関する保健指導を行う。

(3) 回収した安全チェックリストを各々母子手帳に添付する。

(4) 母子手帳添付と同一に複写された安全チェックリストを保健婦が持ち帰り評価する。

### C. 研究結果

年齢毎の安全チェックリストを表1～3に示す。

表1. 安全チェックリスト(4か月児用)

山形氏名	氏名	男・女
生年月日 平成 年 月 日 (歳 か月)		
あてはまるものを○で囲って、4か月児健診の時に持って来て下さい。		
1. これまでに医師にかかるほどの事故にありましたか？		
(1) 何日 事故の種類 (外傷・跌打・窒息・やけど・溺水・交通事故・その他)	いついえ	はい ( ) いいえ ( )
(2) 何日 事故の種類 (外傷・跌打・窒息・やけど・溺水・交通事故・その他)	入院 ( ) 日 通院 ( ) 日	
(3) 何日 事故の種類 (外傷・跌打・窒息・やけど・溺水・交通事故・その他)	入院 ( ) 日 通院 ( ) 日	
2. 子どもだけにして家を留守にすることがありますか？		
いいえ 時々・はい		
3. 子どもがソファやベッドなど高いところにいる時は目を離さないようにしていますか？		
はい 時々・いいえ		
4. 階段や段差のある所には、子どもが落ちないように柵が設置されていますか？		
はい 一部・いいえ		
5. 湯・たばこ・マッチ・化粧品・洗剤・刃物などを子どもの手の届かない所に置いてありますか？		
はい 時々・いいえ		
6. ビニール袋・ラップなどを子どもの手の届かない所に置いてありますか？		
はい 時々・いいえ		
7. 熱いお茶・ポット・鍋・アイロン等を子どもの手の届かない所に置いてありますか？		
はい 時々・いいえ		
8. 暖房としてストーブやファンヒーターを使っている時は、安全欄がありますか？		
はい 時々・いいえ 使用せず		
9. 浴槽や洗濯機に水をためておきますか？		
いいえ 時々・はい		
10. 浴槽に湯をかけるなど子どもが一人で入らないような対策をしていますか？		
はい 時々・いいえ		
11. 自動車の中に子どもを一人しておくことがありますか？		
いいえ 時々・はい 乗車せず		
12. 自動車に乗せる時は、小児用シートベルト付座席を使っていますか？		
はい 時々・いいえ 乗車せず		

表2. 安全チェックリスト(1歳6か月児用)

山形氏名	氏名	男・女
生年月日 平成 年 月 日 (歳 か月)		
あてはまるものを○で囲って、1歳6か月児健診の時に持って来て下さい。		
1. これまでに医師にかかるほどの事故にありましたか？		
(1) 何日 事故の種類 (外傷・跌打・窒息・やけど・溺水・交通事故・その他)	いついえ	はい ( ) いいえ ( )
(2) 何日 事故の種類 (外傷・跌打・窒息・やけど・溺水・交通事故・その他)	入院 ( ) 日 通院 ( ) 日	
(3) 何日 事故の種類 (外傷・跌打・窒息・やけど・溺水・交通事故・その他)	入院 ( ) 日 通院 ( ) 日	
2. 子どもだけにして家を留守にすることがありますか？		
いいえ 時々・はい		
3. 階段や段差のある所には、子どもが落ちないように柵が設置されていますか？		
はい 一部・いいえ		
4. ビーズ・おはじき・硬貨・ボタン等の小さなもので遊ばせますか？		
いいえ 時々・はい		
5. ビーナップ、あめ、あられ等を食べさせることがありますか？		
いいえ 時々・はい		
6. 湯・たばこ・マッチ・化粧品・洗剤・刃物などを子どもの手の届かない所に置いてありますか？		
はい 時々・いいえ		
7. 熱いお茶・ポット・鍋・アイロン等を子どもの手の届かない所に置いてありますか？		
はい 時々・いいえ		
8. 暖房としてストーブやファンヒーターを使っている時は、安全欄がありますか？		
はい 時々・いいえ 使用せず		
9. 浴槽や洗濯機に水をためておきますか？		
いいえ 時々・はい		
10. 浴槽に湯をかけるなど子どもが一人で入らないような対策をしていますか？		
はい 時々・いいえ		
11. 自動車の中に子どもを一人しておくことがありますか？		
いいえ 時々・はい 乗車せず		
12. 自動車に乗せる時は、小児用シートベルト付座席を使っていますか？		
はい 時々・いいえ 乗車せず		

表3. 安全チェックリスト(3歳児用)

山形氏名	氏名	男・女
生年月日 平成 年 月 日 (歳 か月)		
あてはまるものを○で囲って、3歳児健診の時に持って来て下さい。		
1. これまでに医師にかかるほどの事故にありましたか？		
(1) 何日 事故の種類 (外傷・跌打・窒息・やけど・溺水・交通事故・その他)	いついえ	はい ( ) いいえ ( )
(2) 何日 事故の種類 (外傷・跌打・窒息・やけど・溺水・交通事故・その他)	入院 ( ) 日 通院 ( ) 日	
(3) 何日 事故の種類 (外傷・跌打・窒息・やけど・溺水・交通事故・その他)	入院 ( ) 日 通院 ( ) 日	
2. 子どもだけにして家を留守にすることがありますか？		
いいえ 時々・はい		
3. 階段や段差のある所には、子どもが落ちないように柵が設置されていますか？		
はい 一部・いいえ		
4. ビーズ・おはじき・硬貨・ボタン等の小さなもので遊ばせますか？		
いいえ 時々・はい		
5. ビーナップ、あめ、あられ等を食べさせることがありますか？		
いいえ 時々・はい		
6. 湯・たばこ・マッチ・ライター・化粧品・洗剤・刃物などを子どもの手の届かない所に置いてありますか？		
はい 時々・いいえ		
7. 熱いお茶・ポット・鍋・アイロン等を子どもの手の届かない所に置いてありますか？		
はい 時々・いいえ		
8. 暖房としてストーブやファンヒーターを使っている時は、安全欄がありますか？		
はい 時々・いいえ 使用せず		
9. 浴槽や洗濯機に水をためておきますか？		
いいえ 時々・はい		
10. 浴槽から交通安全教育をしていますか？		
はい 時々・いいえ		
11. 自動車の中に子どもを一人しておくことがありますか？		
いいえ 時々・はい 乗車せず		
12. 自動車に乗せる時は、小児用シートベルト付座席を使っていますか？		
はい 時々・いいえ 乗車せず		

## 鹿児島県の小児事故防止対策の取り組み (小児の事故とその防止に関する研究)

主任研究者：田中哲郎	国立公衆衛生院母子保健学部長
研究協力者：宇田英典	鹿児島県保健福祉部保健予防課長
岩松洋一	鹿児島県屋久島保健所
協元三子	鹿児島県保健福祉部保健予防課

### 研究要旨

平成9年度から約2年間、4市8町のモデル市町村を選定し乳幼児健康診査の場において事故防止に対する保健指導の効果を検証し、有効な保健指導を検討するために介入研究を行った。分析対象は、介入群402例、非介入群410例であった。

その結果、「入浴後に浴槽の水をすぐ抜く」の項目に介入の差が認められた。

また、実際に体験した事故事例について県内の保護者や保育所・幼稚園等から募集し、保護者約1,700件、保育所・幼稚園等約380件の情報提供があった。

今後、提供事例の分析を進めるとともに事故事例集を作成し、安全チェックのためのポスター作成、県のホームページへの掲載等対策を講じ、保護者や関係者へ事故防止に取り組むことにしている。

### I はじめに

鹿児島県では、平成9年度に大学小児科医師や保健所・市町村等の保健婦などで構成する「小児事故防止研究会」を設置し、全県下において本格的に小児の事故防止対策に取り組むための前段階としてモデル市町村を選定し、事故防止に対しどのような保健指導が有効であるか検証するために介入研究を行った。その成果や「小児事故防

止研究会」等の検討結果等を踏まえ、現在は乳幼児健康診査の場での保護者に向けた事故防止リーフレットの配布、母子保健指導者を対象とした事故防止研修会の開催、事故事例の募集と事例集の作成、安全チェックのためのポスター作成、県のホームページへの掲載など、母子保健事業の中で事故防止対策に取り組んでいる。

### II 取り組みの経過

時期	項目	内容
1997年度	①小児事故防止研究会の設置  ②研究の実施 「小児の事故防止への介入研究」  ③研修会の開催 保健所や市町村の保健婦及び母子保健推進員等に対する「母子保健指導者研修会」	①小児科医師や保健婦等8人の委員で構成  ②4市8町を調査対象に乳幼児健康診査の場面においてアンケート調査の実施、介入群にのみパンフレットやステッカーを配布し十分な保健指導を実施  ③・事故防止に関する講演 ・関係者による活動報告 ・子どもの事故体験者の体験談 ・3.2cmの輪切りのホース配布

時期	項目	内容
1998年度	①研究の継続 「小児の事故防止への介入研究」  ②リーフレットの作成・配布	①4市8町において調査対象児の家庭に1歳児期に安全チェックリストの配布と、1歳6か月児健康診査におけるアンケート調査の実施 ②乳児期、1歳6か月児期、3歳児期の健康診査の時期において配布するリーフレットを作成し、市町村での各健診時配布
1999年度	①事件事例の募集  ②事件事例集の作成  ③小児事故防止研修会の開催 県内7ブロックにおいて、保護者や保育関係者等に実施  ④小児事故防止ポスター等の配布 ⑤小児事故防止対策検討会の開催 ⑥県のホームページに掲載	①県内の保護者から約1,700件、保育所・幼稚園から約380件の情報提供 ②募集した事例の中から、代表的事件事例を項目ごとに抽出し作成 ③講演内容 ・小児に起こりやすい事故及び防止対策 ・救急処置の実技 ④医療機関、保育所、幼稚園、子ども110番等の施設に配布 ⑤提供事例をもとに対策等今後の取り組みについて検討 ⑥提供事例をもとに防止対策も含め掲載予定

### Ⅲ 「小児の事故防止への介入研究」結果

#### 1 はじめに

鹿児島県では、小児の事故防止に対する保健指導の効果を検証し、有効な保健指導や環境の整備のあり方を検討するために、介入研究を実施した。

本稿では、平成9～10年度（一部11年度）に、乳幼児健康診査等の場を活用して実施した介入前及び介入後の調査結果について報告する。

#### 2 対象と方法

図1に、今回の介入研究の概要を示した。

鹿児島県内の3保健所管内の4市8町を市町単位で2つに分け、それぞれ介入群（2市2町）及び非介入群（2市6町）とした。両群での、6～7か月児健康診査・

健康相談に参加した乳児と保護者を対象とし、共通の調査票を受診時に配布し、その場で回収して介入前調査とした。介入前調査は、平成9年7月から開始し、順次介入を進めた。

介入前調査の結果については、両群に差は認められなかった。

介入方法については、介入群に対して、介入前調査後に通常の保健指導のほか、事故防止に関する集団指導を行った。また、その際、鹿児島県で作成した事故防止用のパンフレットとステッカーを配布した。さらに、介入群のみに対象児が1歳になった時に事故防止のチェックリストを郵送した。これに対して、非介入群については、通常

行われる保健指導にとどめた。

その後、1歳6か月児健康診査の際に、介入後の調査を両群に行い、介入前と介入後の両方の調査結果が揃った組み合わせを分析対象とした。

分析対象は、介入群 402、非介入群 410、計 812 であった。

分析方法は、単純集計のほか、日常生活で気をつけていることについて介入群、非介入群ごとの前後の変化をマクネマー検定、介入後の両群の比較についてはカイ2乗検定をそれぞれ用いた。

### 3 結果

介入後の調査票を記入した者は、母親がほとんどで、介入群 99.3 %、非介入群 97.8 %であった。

対象の属性を表1に示した。両群とも男女はほぼ同数、出生順位別には第1子がもっとも多く、次いで第2子、第3子以降となっている。

日中の主な保育者は表2のとおりである。両群とも母親がもっとも多かった。介入前と介入後の比較では、保育所の割合がいずれも増加していた。

介入後のみの調査であるが、家庭内での喫煙者の有無を表3に、たばこや吸い殻を置く場所についての結果を表4に、それぞれ示した。喫煙者の割合は両群でほぼ同数であった。また、たばこや吸い殻を置く場所については、両群ともほとんどの家庭で注意がなされていた。

事故防止に関して日常生活で注意していることの変化を各群ごとにそれぞれ表5に示した。マクネマー検定による検定結果では、両群とも「階段やベランダに柵をする」、「テーブルの上に熱いものをおかない」、「入浴後に浴槽の水をすぐ抜く」、「ストーブや扇風機などに柵をする」という4項目について、実施している割合が有意に増加していた。

なお、介入後の両群の比較を見ると、「入浴後に浴槽の水をすぐ抜く」という項

目については、介入群が、61.8 %、非介入群が 52.4 %と介入群が有意に高かった。ただし、介入群の「入浴後に浴槽の水をすぐ抜く」を、表6に示したようにステッカーやパンフレットとの活用と比較してみたが、検定の結果では「入浴後に浴槽の水をすぐ抜く」とステッカー等との活用との関係に有意差は認められなかった。

また、介入期間中の子どもの事故の有無については、表7のとおり介入群が 22.9 %、非介入群が 18.8 %と介入群において高い結果が出たが、有意差は認められなかった。

表8に今回の介入についての介入群の受入状況を示した。パンフレットは 92.8 %とほとんどの家庭で読まれていたが、ステッカーについては 15.4 %しか貼られていなかった。安全チェックリストによるチェックは 84.3 %でなされていた。

### 4 考察

結果から、介入群・非介入群ともに日常生活で事故防止に気をつける項目は同様に改善していた。ただし、介入後についてもほとんどの項目で非介入群との間に有意な差は認められなかった。この中で、唯一「入浴後に浴槽の水をすぐ抜く」という項目だけは、介入前の両群の比較では有意差はなく、介入後では介入群が有意に高いという結果が得られた。

しかしながら、このことはステッカーやパンフレットといった教育媒体の有用性を示すまでには至らなかったものの、集団保健指導のなかで、「溺水」予防のために「入浴後浴槽の水を抜く」と具体的に指導していることから、保健指導全体を介入とみた場合、その有効性を示唆していると思われる。

また、介入の一つとしてステッカーを配布したが、これがわずか 15.4 %しか活用されていなかった。

このことは、ステッカーが粘着式であったことが関係していると考えられた。パン

フレットが 92.8%の家庭で読まれていることから、保健指導の際の媒体を今後は、磁石式等を採用するなど活用度の高い媒体の工夫が必要だと思われた。

本研究は通常市町村で行われている乳幼児健康診査や健康相談の場をベースにしているため、厳密な意味で対照群を設定でき

ないところに限界がある。しかしながら、対象者をどのように選定するかとか、保健指導を行う上での留意事項など行政的対応を考える際に重要なヒントを与えるものである。

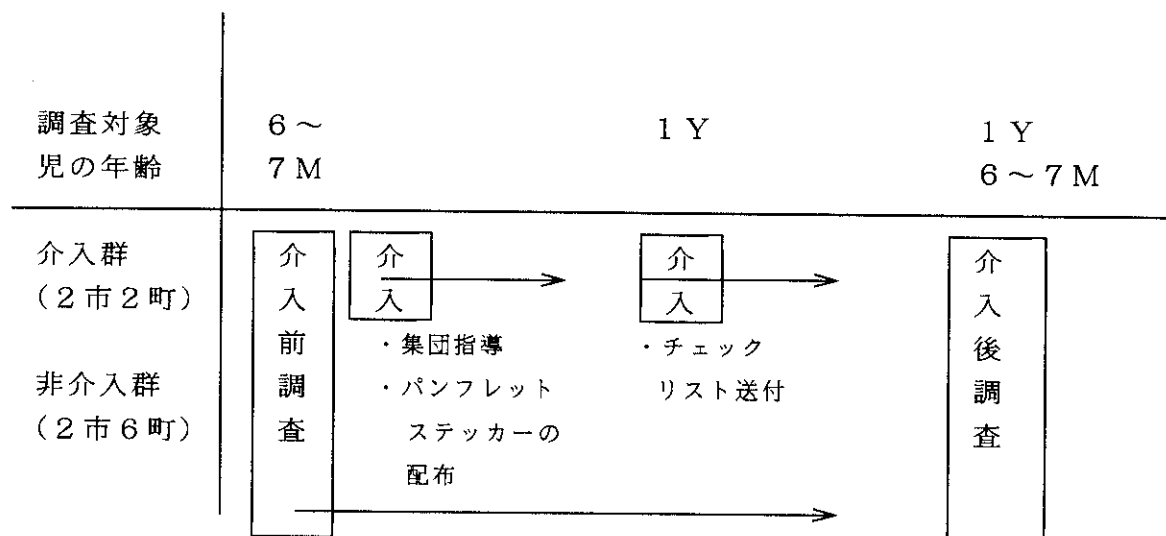


図1 調査の概要

表1 対象の属性

		介入群 (N=402)		非介入群 (N=410)	
性別	男児	209	( 52.0%)	204	( 49.8%)
	女児	193	( 48.0%)	206	( 50.2%)
出生順位	第1子	172	( 42.8%)	163	( 39.8%)
	第2子	147	( 36.6%)	157	( 38.3%)
	第3子～	82	( 20.4%)	90	( 21.9%)
	不明	1	( 0.2%)	0	( 0.0%)

表2 日中の主な保育者

	介入群 (N=402)		非介入群 (N=410)	
	介入前	介入後	介入前	介入後
母親	356 ( 88.6%)	323 ( 80.4%)	370 ( 90.2%)	306 ( 74.6%)
祖父母	10 ( 2.5%)	12 ( 3.0%)	8 ( 2.0%)	14 ( 3.4%)
保育所	10 ( 2.5%)	55 ( 13.7%)	7 ( 1.7%)	73 ( 17.8%)
その他	26 ( 6.4%)	11 ( 2.7%)	25 ( 6.1%)	17 ( 4.2%)
不明	0 ( 0.0%)	1 ( 0.2%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)

表3 家庭内での喫煙者の有無（介入後のみ）

	介入群 (N = 402)	非介入群 (N = 410)
あり	260 ( 64.7%)	264 ( 64.4%)
なし	139 ( 34.6%)	145 ( 35.4%)
不明	3 ( 0.7%)	1 ( 0.2%)

表4 たばこや吸い殻を置く場所（介入後，喫煙者ありの場合のみ）

	介入群 (N = 260)	非介入群 (N = 264)
特に気にとめず	10 ( 3.8%)	2 ( 0.8%)
場所を特定し、手の届かない所に置く	188 ( 72.3%)	185 ( 70.1%)
場所は特定せず、手の届かぬよう注意	61 ( 23.5%)	76 ( 28.8%)
不明	1 ( 0.4%)	1 ( 0.4%)

表5 介入前後における日常生活上での変化

項目	介入前	介入後	N	検定
安全なおもちゃを与える	介入群 386 ( 98.7%)	介入後 379 ( 96.9%)	391	N.S.
	非介入群 395 ( 98.8%)	389 ( 97.3%)	400	
階段やベランダに柵をす る	介入群 103 ( 28.6%)	介入後 150 ( 41.7%)	360	**
	非介入群 83 ( 22.4%)	164 ( 44.2%)	371	
テーブルの上に熱いもの をおかない	介入群 346 ( 89.2%)	介入後 366 ( 94.3%)	388	**
	非介入群 352 ( 88.8%)	382 ( 94.8%)	403	
子どもを家に1人にしな い	介入群 376 ( 96.4%)	介入後 382 ( 97.9%)	390	N.S.
	非介入群 389 ( 96.0%)	396 ( 97.8%)	405	
子どもを車に1人にしな い	介入群 374 ( 96.4%)	介入後 365 ( 94.1%)	388	N.S.
	非介入群 384 ( 95.5%)	378 ( 94.0%)	402	
タバコを子どもの周りに おかない	介入群 381 ( 98.7%)	介入後 373 ( 96.6%)	386	N.S.
	非介入群 392 ( 99.7%)	393 ( 98.0%)	401	
薬を子どもの周りにおか ない	介入群 379 ( 98.2%)	介入後 379 ( 98.2%)	386	N.S.
	非介入群 398 ( 98.3%)	399 ( 98.5%)	405	
入浴後に浴槽の水をすぐ 抜く	介入群 168 ( 44.2%)	介入後 235 ( 61.8%)	380	**
	非介入群 161 ( 40.1%)	210 ( 52.4%)	401	
ストーブや扇風機などに 柵をす	介入群 240 ( 63.7%)	介入後 289 ( 76.7%)	377	**
	非介入群 246 ( 62.6%)	292 ( 74.3%)	393	

注1：介入前・後とも回答している場合のみを分析した。

注2：検定はマクネマー検定を用いた。

太文字の箇所のみ、両群の比較にカイ2乗検定を用いた。

注3：N.S. 有意差なし，\*\* p<0.01，\* p<0.05



表6 介入後の「浴槽の水を抜くことと保健指導媒体との関係」

介入群		ステッカー(N=352)		パンフレット(N=372)	
		貼った	貼らない	読んだ	読まない
浴槽の水を抜く	はい	40 (16)	178	227	5
	いいえ	19 (5)	115	136	4

注1：ステッカーの「貼った」の（ ）内は、風呂場に貼った者の数

注2：検定はカイ2乗検定を用いたが、有意差なし。

表7 介入期間中における子どもの事故の有無

	介入群 (N = 402)	非介入群 (N = 410)
あり	92 ( 22.9%)	77 ( 18.8%)
なし	288 ( 71.6%)	323 ( 78.8%)
不明	22 ( 5.5%)	10 ( 2.4%)

表8 介入についての項目（介入群のみ）

項目	回答	結果
パンフレットを読んだか	読んだ	373 ( 92.8%)
	読まなかった	11 ( 2.7%)
	不明・もらっていない	18 ( 4.5%)
ステッカーを貼ったか	貼った	62 ( 15.4%)
	貼らなかった	299 ( 74.4%)
	不明・もらっていない	41 ( 10.2%)
安全チェックリストに基づきチェックをしたか	チェックした	339 ( 84.3%)
	チェックしない	40 ( 10.0%)
	不明	23 ( 5.7%)

## Ⅳ 事故事例募集結果

### 1 保護者の情報提供結果

(1) 提供件数 (平成12年1月25日現在 提供件数1,695件)

種類	事故件数	男女別		平均年齢	場所		入・通院件数			
		男	女		家庭内	家庭外	未受診	初診のみ	通院	入院
誤飲	167	98	69	1.5歳	154	13	44	85	14	20
窒息	55	34	21	1.9歳	45	9	35	11	4	3
外傷	158	93	65	2.9歳	89	69	9	23	124	2
火傷	283	163	120	2.1歳	44	37	39	34	192	11
溺水	44	24	20	2.6歳	29	16	29	3	2	4
交通事故	43	32	11	3.8歳	0	43	2	8	22	12
転倒	282	162	120	3歳	145	136	29	58	175	14
転落	355	212	143	2.4歳	206	144	80	107	130	29
衝突	50	26	23	3歳	22	26	4	7	34	2
はさむ	131	64	66	2.7歳	65	66	56	24	38	4
その他	68	34	34	2.6歳	52	16	14	30	23	1
未記入, 他	59									

\*未記入があるため、事故件数と発生場所等の数字が一致しない項目がある。

### (2) 事故種類ごとの特徴

- ①誤飲……タバコ（特に吸い殻）の誤飲が多い。  
ビニールなど大人が考えもしないものを口に入れる例も多い。
- ②窒息……あめ玉が多い。
- ③外傷……特に目立って多い原因となるものはないが、切り傷ではカッターが多い。
- ④熱傷……ストーブ・アイロン・炊飯器の蒸気口での熱傷が多い。
- ⑤溺水……浴室での事故が多く、ほんの一瞬のできごとという例が少なくない。
- ⑥交通事故……シートベルト未着用で、急ブレーキによる車内での転倒や、駐車場等における駐車や発進の際の事故が多い。
- ⑦転倒……場所や原因はさまざまであるが、浴室の床などで滑ることが多くこの場合切り傷も深い。
- ⑧転落……階段からの転落が多い。
- ⑨衝突……遊んでいるときの事故が多く、家具等への衝突が多い。
- ⑩はさむ……室内のドアによるものが多いが、車のドアやパワーウィンドウではさむ事故も多い。
- ⑪その他……耳に綿棒などを突っ込んだり、鼻に物を詰めたりする事故が多い。

## 2 保育所・幼稚園の情報提供結果

(1) 提供件数 (平成12年1月25日現在 提供件数 378件内訳 )

種 類	事故件数	男女別		平均年齢	場 所			入・通 院 件 数			
		男	女		園舎内	園舎外	園 外	未受診	初診のみ	通 院	入 院
誤 飲	1	0	1	4. 8歳	1	0	0	0	1	0	0
窒 息	0										
外 傷	88	57	31	4. 3歳	46	35	7	1	18	69	0
火 傷	6	5	1	3. 2歳	4	0	1	0	0	6	0
溺 水	1	1	0	2. 2歳	0	1	0	0	0	0	1
交通事故	2	1	1	4. 8歳	0	0	2	0	0	0	1
転 倒	131	97	33	4. 3歳	64	58	9	1	22	107	1
転 落	70	46	24	4. 5歳	17	50	3	5	7	51	7
衝 突	29	23	6	2. 8歳	18	11	0	0	5	23	1
は さ む	24	13	11	3. 8歳	17	5	2	1	3	20	0
そ の 他	25	19	6	3. 7歳	19	5	1	0	18	6	1
対象外, 他	4										

\*未記入があるため、事故件数と発生場所等の数字が一致しない項目がある。

### (2) 事故種類ごとの特徴

- ①誤 飲……ビーズを誤飲した。
- ③外 傷……けんかによるものや積み木やブロックの角で切るなどの事故が多い。
- ④熱 傷……給食のみそ汁やお茶の事故が多い。
- ⑤溺 水……プールでの事故であった。
- ⑥交通事故……通園途中に起きている。
- ⑦転 倒……水洗い場で滑ったり、走り回ってつまづくという例が多い。
- ⑧転 落……太鼓橋、滑り台など遊具からの転落が多い。
- ⑨衝 突……走ってドアや遊具、友達への衝突が多い。
- ⑩は さ む……ドアによるものが多い。
- ⑪そ の 他……脱臼が多い。

## V 今後の取り組み

少子化社会の中にあって健やかに子どもを育てる観点から、事故防止対策は今後も母子保健事業の重要な課題であると考えられる。

介入研究の結果、保健指導の効果について「入浴後に浴槽の水をすぐ抜く」という項目に、介入の有効性が認められた。ステッカーやパンフレット等の教育媒体の効果については、有用性は認めなかったものの具体的保健指導等、保護者に対する総合的保健指導が有効と伺えた。

また、募集した事例からはタバコの誤飲や階段からの転落など起こりやすい事故に

故については、保健指導の徹底により防止可能な事例が多く見受けられた。

これらのことから、今後さらに、以下のような取り組みが考えられる。

また、県下全域において乳幼児健康診査や健康相談の場等を利用し、発達段階を踏まえ年齢に応じた事故防止に対するパンフレット等の作成・配布、保護者への具体的な保健指導を確実に実施するとともに、保健婦や保育所・幼稚園などの関係者に対し事故防止の重要性を認識させるための研修会等様々な機会を通して事故防止対策を普及していくことが重要である。

(事故防止対策検討会結果より)

取 り 組 み 内 容	方 法
(1)防止体制を整える。 提供事例や過去数年間の死亡事件事例を分析し、どのような働きかけをすれば防止できたのかの検討	(1)の場合 ①交通事故 ・警察も含めた地域の交通予防体制の点検 ・安全教育の対象や方法の再点検 ②溺死 ・危険地域の有無の点検 ・着衣のままの水泳教室の実施
(2)体験学習セットの貸出し	(2)の場合 ・事故について体験できる場やミニハウス、幼児視野体験メガネ等の市町村の健康診査やイベントの会場での貸出し
(3)継続した具体的保健指導	(3)の場合 ・妊娠届出時に環境安全チェックカード等を配布 ・小児の目の高さからみた危険個所や事故のシュミレーションビデオの放映
(4)安全環境モデル地区の設置	(4)の場合 ・モデル地区を指定し、調査員(保健婦等)による家屋安全チェック調査 ・警察や学校とともに行う、交通事故も含めた危険地域の点検